

トピックス

●新たにインド営業所と広島出張所を開設

当社は、2024年4月より新たな海外営業拠点として、インド営業所を開設いたしました。インド市場は自動車やインフラ関連が成長分野として見込まれており、今後の成長マーケットであると捉え、営業スタッフ1名の駐在を開始しております。



本拠点の開設により当社の海外駐在拠点は、中国(上海)、アメリカ(シカゴ)、ヨーロッパ(ヴェルナウ)を含め4拠点となります。本駐在拠点はDMG MORI India Pvt. Ltd.(バンガロール)に設置されており、DMG MORIグループとして共同で営業活動を行うことで、新規ユーザーの開拓を進め、海外受注の拡大を図ってまいります。

また、国内においては西部営業所管轄の広島出張所(広島)を開設いたしました。これにより国内営業拠点は、東部(さいたま)、中部(名古屋)、西部(大阪)を含め4拠点となります。本拠点の開設により、納入台数が増えてきております中国地方の更なるお客様需要の取り込みを行うとともに、サポート体制を強化してまいります。

●海外展示会に出展し、海外販売における新ブランド名称の使用を開始

Chicago Innovation Days 2024

開催日：2024年5月7日～10日

開催地：DMG MORI USA Chicago Solution Center

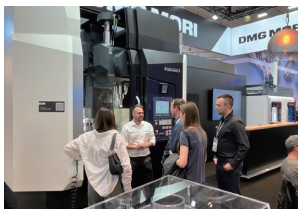
出展機：立形複合研削盤「Vertical Mate 85」

Grinding Hub 2024

開催日：2024年5月14日～17日

開催地：ドイツ、シュトゥットガルト

出展機：立形複合研削盤「CVG-6」



当展示会より、当社製品の海外販売におけるブランド名称に、「DMG MORI Precision Grinding」を使用することといたしました。

DMG MORIの営業・販売体制を活用し、かつグローバルブランド名称を使用することで、効率的に海外マーケットの拡大を図ってまいります。

(2024年6月30日現在)

会社概要

●設立年月日	1986年3月14日	●ネットワーク	
●資本金	700,328,200円	国内拠点	本社・工場(長岡)
●発行可能株式総数	18,000,000株	東部営業所	(さいたま)
●発行済株式の総数	5,956,400株	中部営業所	(名古屋)
		西部営業所	(大阪)
●本社所在地	新潟県長岡市西陵町221番35	広島出張所	(広島)
●従業員	293名	海外拠点	
●主な事業内容	工作機械(各種研削盤)の開発・製造及び販売	中国(上海)	
		アメリカ(シカゴ)	
		ヨーロッパ(ヴェルナウ)	
		インド(バンガロール)	
●株主メモ			
事業年度	1月1日～12月31日		
期末配当金 受領株主確定日	12月31日		
中間配当金 受領株主確定日	6月30日		
定時株主総会	毎年3月		
株主名簿管理人 及び特別口座の 口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社		
同連絡先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 TEL 0120-782-031 (通話料無料)		
上場証券取引所	東京証券取引所スタンダード市場		
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.taiyokoki.com (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)		

Webサイトのご紹介

<https://www.taiyokoki.com>



当社ではWebサイトにて当社の企業情報を随時開示しています。製品情報や当社の取り組み等を掲載しているほか、IR情報のページでは決算短信等をご覧いただけます。



関連サイト YouTubeチャンネルのご紹介



関連サイトとして、当社のYouTubeチャンネルを開設しております。当社の会社紹介、立形研削盤を始めとした各種研削盤の加工動画等をご覧いただけます。



TAIYO KOKI

第40期 [中間期]

BUSINESS REPORT

2024年1月1日 ▶ 2024年6月30日

株式会社太陽工機

証券コード 6164

株主の皆様へ



株主の皆様には平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

当社における第40期中間期(2024年1月1日から2024年6月30日まで)の事業の概況をとりまとめましたので、ここにご報告を申し上げます。ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

2024年9月

代表取締役社長 渡辺 剛

当中間期の営業概況

当中間会計期間の工作機械業界は、日本工作機械工業会が発表した工作機械受注実績(2024年1月1日から2024年6月30日まで)が前年同期比で3.7%減少しました。

ウクライナ情勢や中東情勢の緊迫化による世界経済の先行き不透明な状況は依然として継続しているものの、自動車関連の継続的な投資と半導体関連需要は増加しており、受注は回復の兆しが見えつつあります。当社におきましても、お客様の人手不足による省人化に対する設備投資ニーズの高まり、半導体関連製造装置、産業機械関連において設備投資需要は高く、受注は調整局面から緩やかな回復局面を迎えつつあります。

当中間会計期間の受注高は、前年同期に対して16.7%の減少となり、地域別では日本において8.6%の減少、中国においては33.2%の減少、その他アジアにおいては59.2%の減少、欧州では35.6%の増加、米州では63.9%の減少となりました。ただし、当中間会計期間の4~6月の受注高においては、第1四半期会計期間と比較し増加に転じており、第1四半期会計期間に対して39.0%増加しております。

営業活動においては新たにインド営業所と広島出張所での営業活動を開始した他、アメリカにてChicago Innovation Days 2024、ドイツにてGrinding Hub 2024といった展示会に出展し、当社製品の拡販を図ってまいりました。また、当社の海外製品にグローバルブランド名称を使用することを開始しました。DMG MORIの世界116拠点の販売・サービス体制を活用しながら、効果的に海外マーケットの拡大を図ってまいります。

当中間会計期間の受注高は4,316,371千円(前年同期比16.7%減)となりました。

売上高につきましては、4,682,466千円(前年同期比1.5%減)となりました。損益につきましては、営業利益246,088千円(前年同期比5.8%減)、経常利益257,967千円(前年同期比5.0%減)、中間純利益172,700千円(前年同期比6.6%減)となりました。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当中間期の業績

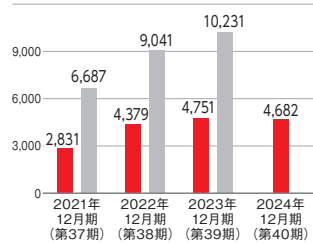
売上高
46億82百万円

営業利益
2億46百万円

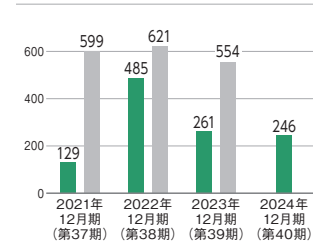
経常利益
2億57百万円

中間純利益
1億72百万円

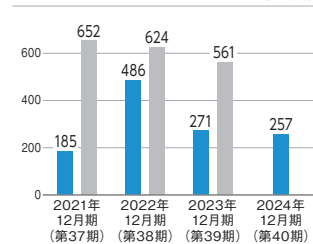
売上高 (百万円)



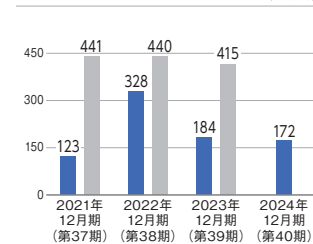
営業利益 (百万円)



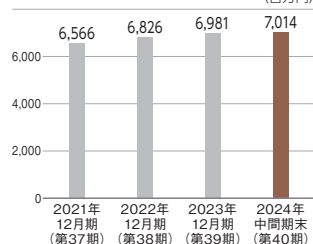
経常利益 (百万円)



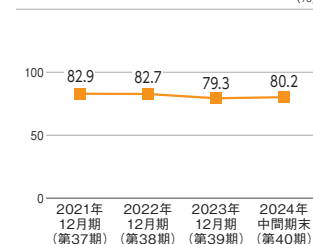
純利益 (百万円)



純資産 (百万円)



自己資本比率 (%)



品目別売上高構成比



財務諸表

(注)金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表

(単位:千円)

科目	前期末	当中間期末
	2023年12月31日現在	2024年6月30日現在
【資産の部】		
流動資産	6,420,433	6,297,434
固定資産	2,384,268	2,454,290
(有形固定資産)	(2,130,365)	(2,171,782)
(無形固定資産)	(83,860)	(80,926)
(投資その他の資産)	(170,042)	(201,581)
資産合計	8,804,702	8,751,725
【負債の部】		
流動負債	1,822,719	1,736,750
負債合計	1,822,719	1,736,750
【純資産の部】		
株主資本	6,981,983	7,014,974
資本金	700,328	700,328
資本剰余金	534,180	535,864
利益剰余金	5,838,715	5,864,513
自己株式	△91,241	△85,732
純資産合計	6,981,983	7,014,974
負債純資産合計	8,804,702	8,751,725

損益計算書

(単位:千円)

科目	前中間期	当中間期
	自 2023年1月1日 至 2023年6月30日	自 2024年1月1日 至 2024年6月30日
売上高	4,751,915	4,682,466
売上原価	3,733,410	3,520,349
売上総利益	1,018,505	1,162,116
販売費及び一般管理費	757,361	916,027
営業利益	261,144	246,088
営業外収益	11,908	14,676
営業外費用	1,422	2,797
経常利益	271,630	257,967
税引前中間純利益	271,630	256,268
法人税等合計	86,785	83,568
中間純利益	184,845	172,700